

# 第32回（H27.夏） 佐鳴湖水質調査の結果



平成27年9月 佐鳴湖地域協議会

佐鳴湖では、住民の方々にご協力いただき、四季ごとに水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算32回目となりました。

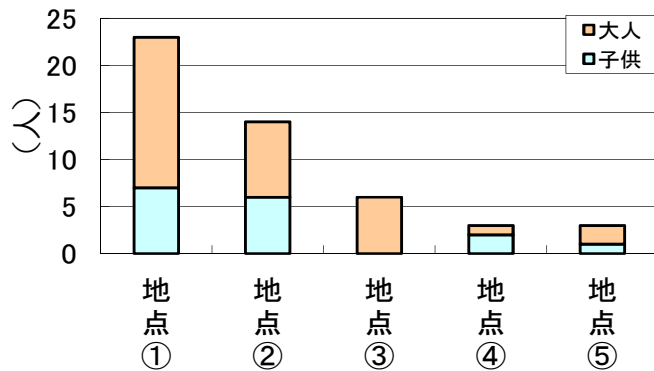
調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は、調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地ですぐ簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」や「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいやすさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH <sub>4</sub> -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD

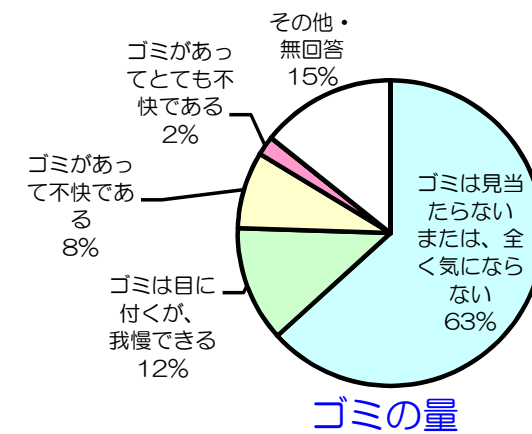


調査日時：平成27年8月22日（土）  
9時～12時  
参加人数：27名  
（大人18名、子供9名）  
調査地点：5地点 ※1人2地点ずつ測定

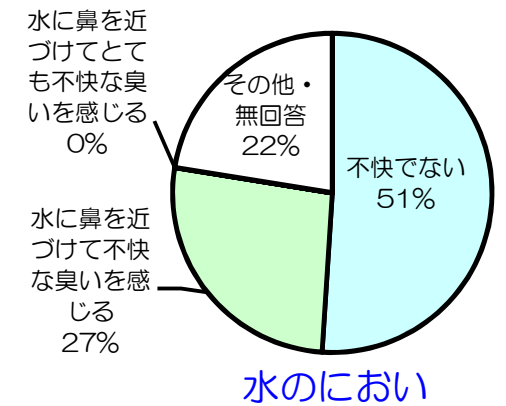
各調査地点の調査人数



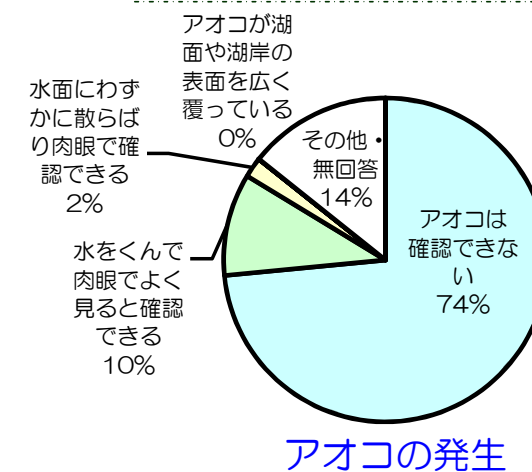
## アンケート調査の結果



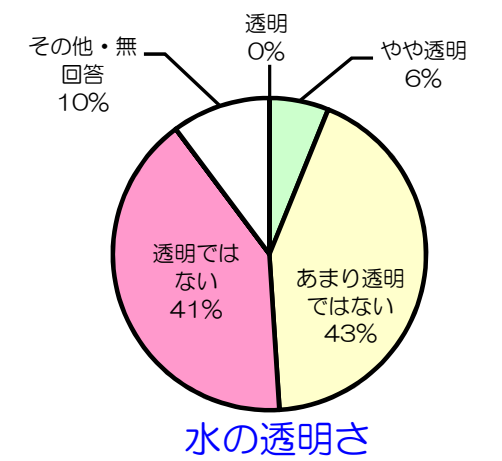
63%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



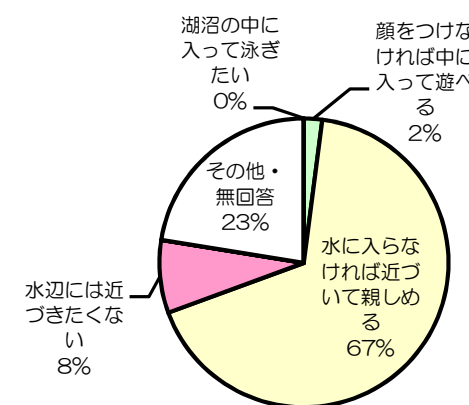
51%の人が水のおいしさは「不快でない」と答えました。



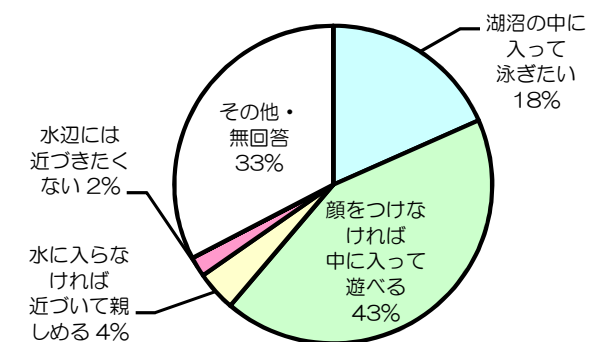
「アオコは確認できない」という回答が大半を占めました。



ほとんどの人が「透明ではない」または「あまり透明ではない」と答えました。

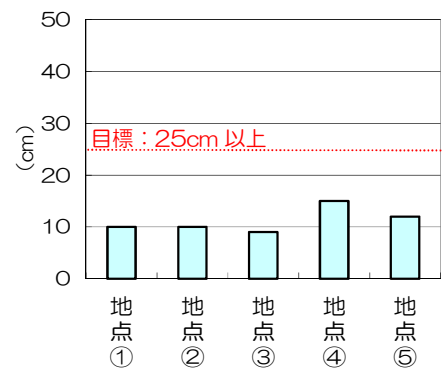


「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が67%で最も多くなりました。



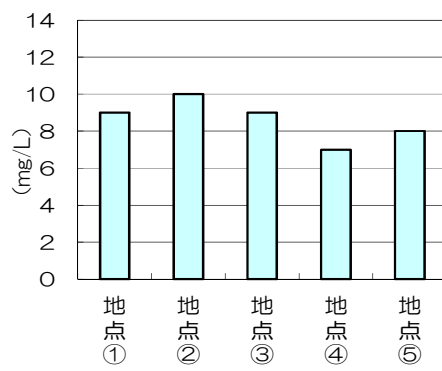
「水の中に入って遊べる」湖になってほしいという回答が最も多くなりました。

簡易水質調査の結果



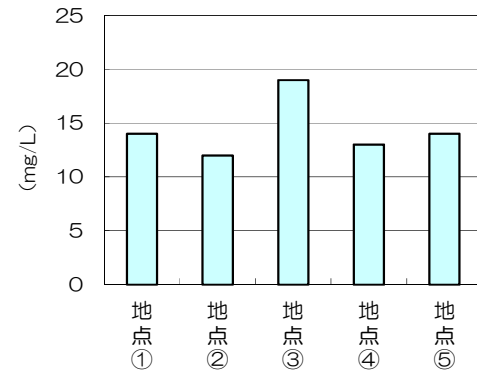
透視度

透視度（水の透明さの程度）は 9 ~15cm で、目標の 25cm を下回りました。



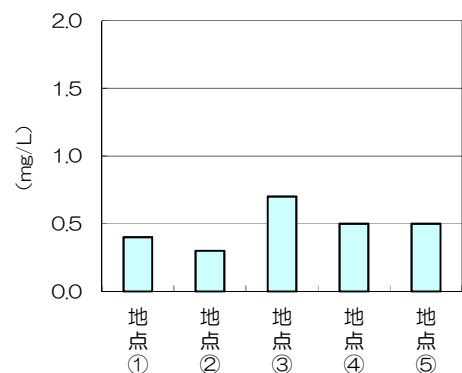
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で 7~10mg/L でした。

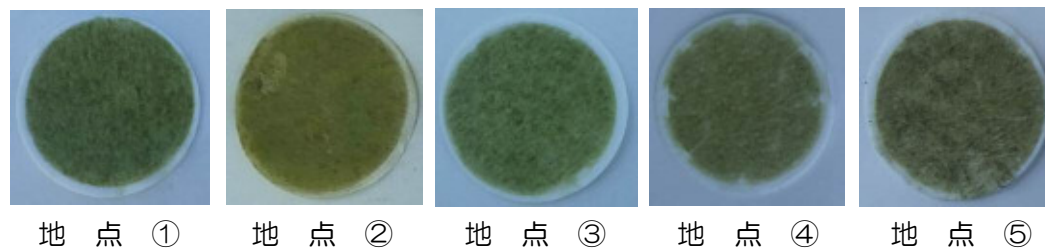


化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で 12~19mg/L でした。



クロロフィルの簡易確認



アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で 0.3~0.7mg/L でした。

注射筒とろ紙を使って、200mLの水をろ過しました。ろ紙の色は、いずれの地点も濃い緑色になり、植物プランクトンが多いことがうかがえました。



河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィルa (μg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH <sub>4</sub> -N (mg/L)
調査地点①	23	40.2	86	180	9.3	11.5	0.04
調査地点②	16	27.2	64	460	8.7	11.1	0.11
調査地点③	16	14.8	33	560	5.4	10.1	0.17
調査地点④	27	20.3	50	700	11.5	10.9	0.20
調査地点⑤	50	29.4	46	3300	8.9	12.8	0.22

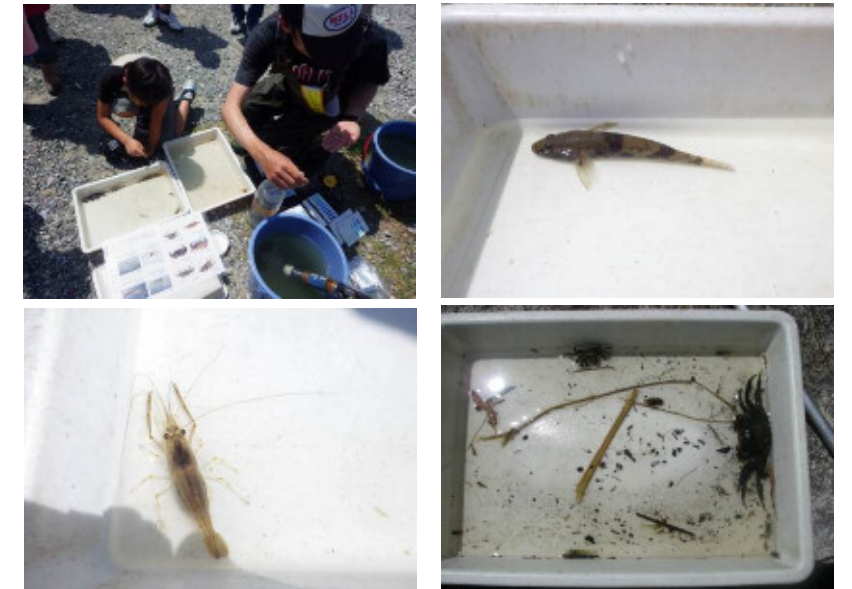
溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

生物調査の結果

水生生物の採取

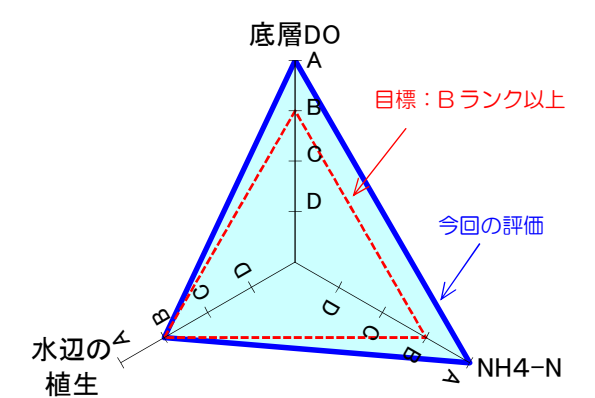
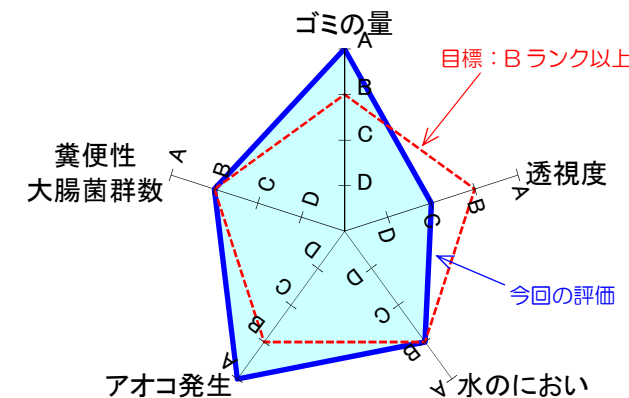
ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは②③⑤のあわせて3地点です。

甲殻類はテナガエビ、スジエビ、ヌマエビ、モクスガニ、クロベンケイガニなどがとれました。魚類はオイカワ、ウロハゼ、ヌマチチブ、メダカがとれました。今回の調査では、3地点あわせて10種類の生物を確認できました。



湖沼における新しい水質管理指標（案）による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者（静岡県）による測定結果を、平成22年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した5地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目でBランク以上になることです。今回も「透視度」がCランクとなり、目標は達成できませんでした。また、前回（H27春）と比べると「水のおい」がAからBランクに下がりました。一方、「ゴミの量」と「底層DO」がBからAランクに上がりました。Aランクの数は、のべ40項目（8項目×5地点）のうち23項目（全体の58%）でした。



おわりに 当日はたいへん暑くなりましたが、調査に参加していただいたみなさん、ありがとうございました。次回「秋の調査 11月14日(土)」にも、多くの方のご参加をお待ちしています！



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：佐鳴湖地域協議会

(事務局) 静岡県浜松土木事務所 企画検査課 (053-458-7266)